

【表題】 ルフトハンザ・フライト・トレーニング視察報告

－新たな資格及び訓練形態の考察－ 【調査報告】

【著者】 大村 大介・西小路 謙

【発表】 航空大学校研究報告 R-62

【時期】 2009年11月

【概要】

現行の航空機乗組員技能証明制度においては、最近の航空機の高性能化や運航及び乗務員訓練に係わる目覚ましい発展に対応していないことから2006年ICAOのANNEX1（航空機乗組員の技能証明基準及び訓練要件）の改定が行われた。この改定の主要な課題の一つが、エアラインの副操縦士要員を基礎課程から一貫して育成する新たな技能証明 Multi-crew Pilot License (MPL)の新規設定である。この世界的な流れを受けて、我が国でも航空局や航空会社のメンバーからなるワーキンググループを設置して、このMPLに関連する諸外国の事情や動向を調査する必要性が出てきた。この度、著者らは欧州では最初にMPL訓練シラバスを構築する予定であるドイツ共和国・ブレーメンにあるルフトハンザ、・フライト・トレーニング Lufthansa Flight Training を訪問する機会を得た。（日程:平成20年1月21日（月）～27日（日）<内海外日程22日～26日>）この海外研修及び現行入手しうる資料から、航空大学校のMPLへの関わり方及び現行訓練及び今後の訓練のあり方を検証する。